



石狩市スキーSAT事業の あり方を考える関係者懇談会

石狩スキー連盟
会長 佐々木良則

1. はじめに

雪国の子どもたちに、安全で楽しいスキーを経験してもらうことを目的に、石狩スキー連盟では、石狩市教育委員会と連携して、スクール・アシスタント・ティーチャー・SATに取り組み、市内各学校へ指導者を派遣しています。この取り組みは2007年度に始まり、この冬で10年目を迎えることとなります。節目に当たり、これまでのスキーSAT事業の成果と課題を明らかにし、より望ましい形に発展させるために、石狩市教育委員会様、学校の先生方、本連盟の関係者による懇談会を実施いたしました。この懇談会の内容をご紹介します。

2. 懇談会の概要

- (1) 日時 : 7月7日(木) 17:30
- (2) 会場 : 石狩市民図書館 研修室1
- (3) 参加者
 - ・ 教育委員会代表
石狩市教育委員会学校教育課長
安崎 克仁 様
 - ・ 学校代表 7校 7名の先生
ご協力いただいた学校
石狩小学校 花川小学校
生振小学校 南線小学校
紅南小学校 聚富小中学校
花川北中学校
 - ・ 主催者 石狩スキー連盟
会長 佐々木 良則
副会長 石黒 隆一 (運営)
事務局長 駒形 武志 (司会)
副事務局長 関野 由則
副事務局長 松尾 博美
元事務局長 今井 登

3. 懇談会の内容

(1) 主催者と教育委員会からの挨拶

会長 皆さん、こんにちは。石狩スキー連盟の会長を仰せ付かっております佐々木と申します。

学校で冬のスポーツ・スキーをカリキュラムに取り入れ、子どもたちにスキーを指導していただき、スキーの発展に力を尽くしていただいていることに感謝しています。

石狩スキー連盟は、スキーの普及・発展を目的に、主に指導者が集まり組織しています。学校現場の指導に役立てばと、スキー授業におけるSATの活動を開始して10年になります。年数が経過するに従い、学校と指導するSATの先生の間には若干の意識のずれや課題が出てきています。その課題を今日の話し合いを通して解決し、さらに方向性を出していければと思います。よろしくお願いいたします。

司会 本日はご多用な中、石狩市教育委員会生涯学習部学校教育課長 安崎様にお越しいただきました。よろしくお願いいたします。

安崎 教育委員会学校教育課長の安崎と申します。

SATは、スクール・アシスタント・ティーチャーの略称で、平成14年度に学習支援事業として始まりました。その後、学校から「スキーでもSATを」という希望があり、当時の地域教育推進室がスキー連盟にお願いして実現した事業です。以来、学校からは安全面、指導面で有資格者の方に期待する声が強く、スキー連盟のお力を頂戴しています。

昨シーズンは、134人をこちらからお願いして、結果的に95%を超える形で派遣してい

いただきました。本当にありがとうございました。

私自身は小学校時代を喜茂別町で過ごし、裏山でスキーができる恵まれた環境で育ちました。この懇談会を通して、より連携を深めさせていただき、子どもたちがスキーの楽しさを実感できるより効果的なスキー授業ができるようになればと思います。よろしく願いいたします。

(2) 参加者自己紹介

司会 本日司会を担当する石狩スキー連盟事務局長の駒形と申します。皆さんから自己紹介をしていただきます。安崎課長さんのお話の中にもありましたが、ご自身のスキーへのかかわりもひとこと言っていただければ、懇談がスムーズになるかと思えます。

石黒 副会長の石黒です。3月まで学校の現場でスキー学習にかかわっていました。4月から教育委員会に勤務しておりますので、学校と連盟の調整役という立場でSATのお役に立てればと思います。

松尾 仕事をリタイヤした後、しっかりスキーに取り組みたいと思っていたころにSAT事業が始まりました。毎年10回くらいやらせていただいています。

関野 SATは3年くらい前から、年に2~3回くらいです。普段はスキー学校で授業をやらせていただいています。教わる方が長かったので、教わった経験を生かしていきたいと思えます。

今井 SATで昨年9回お世話になりました。私も普段はスキー学校で指導しています。安全に、楽しく、いかに上達させるかが課題です。先生たちの普段からの教育がいいのでしょうか、石狩の子どもたちは素直で教えやすいと思っています。

A 先生 私は小学校のころ、釧路でスピードスケート、アイスホッケーをやっていました。スキーはそんなに得意ではありませんが、体育専門なので、江別ではスキー授業を8年やってきました。

昨年石狩に来て、大きな中学校では本校し

かスキーに取り組んでいないということ聞き、他の中学校もやればいいのにと思っています。北海道全体として体制を組んで、子どもたちが冬のスポーツにしっかり取り組めるといいなと思っています。

B 先生 小中併置校でスキー学習は年3回やっています。せっかく北海道に生まれ育っている子どもたちなので、冬のスポーツ・スキーが楽しくできればいいと思います。私は出身が小樽でスキーができなければダメという世界で大きくなりました。SATの先生のおかげで、子どもたちがスキーの楽しさを感じてくれることに感謝しています。

C 先生 学校で行くだけでなく、自分も年に数回スキーに行っています。技術と楽しさを伝えることができるスキー学習にしたいと思っています。

D 先生 本校は児童数950人の大規模校です。1学年160名前後ですので、担任4~5名。担任外二人くらいだと、どうしてもSATの先生に持っていただく人数が多くなってしまい、申し訳なく思っています。それでも、SATの先生のおかげで、グループに分けることができているので、子どもたちは楽しさを感じてくれています。スキーが上達して楽しいという言葉聞いて、SATの先生に感謝しています。

私の出身は道東でスケートばかりしていて、就職したときにはスキーができなかったのですが、仕事が終わったあと、ナイターに同僚の先生に誘っていただき教えてもらいました。最初はほんとにいやだったのですが、だんだん楽しくなって一人でもスキーに行くようになりました。上手になれば楽しくなるということを、子どもたちにも経験してほしいと思えます。

E 先生 本校は1、2年生が学校の築山で、3年生以上がゲレンデでスキーをしています。SATの先生には専門性を生かした楽しい授業をしていただいています。2月になると学校自前で持っている用具で、歩くスキーもやっています。両方のスキーに取り組む珍しい

学校です。

F 先生 私は昔、連盟の教室で生徒として教えてもらいました。お世話になりました。今、スキー授業には出てないのですが、連絡調整の仕事をしています。「グループの人数を少なくして指導したい」と連盟にお願いして、毎回何とか4名の先生にお手伝いいただいています。各学年、教員プラス4名のSATの先生の指導に加え、保護者や卒業生にもお願いし、サポートも充実できるようにしています。おかげでどの子どもも楽しくスキーをすることができています。

G 先生 4年前まで、別の連盟で準指導員として活動していました。海外に勤務していて、資格を喪失してしまいました。もったいないことをしたと思っています。学校のスキー研修で、私の経験を先生方に伝える機会がありました。先生たちは知識を欲していて、とても喜んでくれました。たとえば、リフトを降りてからどう並んだらいいのか。指導するときどう並んだら安全にできるのか。ピンポイントでうまくなるコツはあるのかなどです。先生たちが指導方法をどう研修できるかということも課題かなと思っています。

(3) 成果について

司会 今、自己紹介をしていただいて、いろいろな立場の先生方がいらっしゃって、先生自身の指導力にも幅があることがわかりました。また、現場の先生たちが指導方法を身に付けたいと求めていることもわかってきました。

今日の懇談会の柱として次のようなことを考えています。

- ・ 10年目を迎える石狩市スキーSAT事業の成果
- ・ 子どもの安全確保に係る課題と解決方法
- ・ 効果的で楽しいスキー学習とするための三者の連携のあり方

このあたりに絡みながら話が進めばいいのかと思います。

まず成果ということではいかがですか。

F 先生 SATの先生からいただいたお手紙のおかげで、学校としてスキー学習のやり方を見

直すことができました。SATの先生が子どもをほめてくださり、子どもたちが来年も来てねと言って、その交流が次の年につながっていったということです。SATの先生と子どもたち、学校のかかわり方や連絡のとり方を見直すことで、充実したスキー学習ができるようになりました。

B 先生 本校は少人数の学校なので、申し訳ないくらい恵まれています。子どもたちは本当にスキーを楽しみにしています。SATの先生には技術を教えていただき、学校の先生は学ぶ姿勢、挨拶をしっかりさせる役割を担っています。先生たちはSATの先生の教え方を見ていて、一緒に勉強させてもらっています。

司会 今までのお話で成果については、子どもたちのスキーが上達したこと、とても楽しんでくれていること、学校と連盟のかかわりや役割をはっきりさせることで、スキー授業が充実したことがあげられました。

(4) 課題について

D 先生 悩みを聞いていただきたいと思います。苦手な子は少ない人数にして少しでもリフトに乗れるようにしてあげたいけれど、SATの先生にお願いするのは申し訳ないので、職員が付くこととなります。ある程度滑ることができる子をSATの先生にお願いすると、30人以上になってしまうことがあります。グループの人数が反省に出るのですが、実情としてそうになっています。

今井 人数が多いと一人一人に指導できません。必要な人数を遠慮しないで頼んではどうでしょう。グループの人数が少ない方が間違いなく上達します。私たちもせっかく教えるならうまくさせたいと思います。依頼された人数を確保できるかどうかは連盟の問題ですが、頼んでみてはどうですか。私も昨年より回数を増やしてもお手伝いしようと思います。

関野 人数によってその授業の目標が変わってきます。20人以上になると、安全に楽しくということに比重が移ります。少なければ、技術を高めて楽しくということが可能になります。私は人数によって目標を変えるので、あ

まり人数は問題にしていません。できれば少ない方がいいですけど。

松尾 私は、安全面を考えると 15 名くらいが限界だと思います。要望を出していただいてもいいと思います。

石黒 私は 3 月まで別の町の学校に勤務していました。SAT の仕組みがないので、20 人 30 人のグループを持つことになります。上級グループを持つことが多いのですが、それでも、スキーが外れたまま履けないなどというトラブルがあります。列が長いと登って行って救うことは大変です。保護者の方にサポートをお願いして、後ろについていただくことでトラブル対応が容易になります。先ほど、保護者や卒業生にサポートをお願いしているという学校の報告がありましたが、このことで先生たちの負担はかなり軽減できます。

会長 連盟の有資格者は 100 名を超えていますが、SAT に協力できるのは、仕事をリタイヤした方や主婦の方などに限られてしまいます。現役の方はスキー学習が行われる時間には仕事に出ていて難しいです。

限られた人数ですが、この話し合いを伝えて、活動の回数を増やすように働きかけ、これからも SAT 事業に協力していきたいと思っています。



(5) 研修と先生たちの指導力向上

今井 先生方の指導力向上というお話がありましたが、過去にも要望があって、連盟で先生対象の研修会を開いたことがありますね。そのときは、人数が集まらなくて立ち消えにな

ったと記憶しています。何人か来てもらえれば、教えることは可能ですよね。

F 先生 学校で毎年スキー場に行っておスキー研修をしています。その時にお願いして講師として来ていただくことは可能ですか。

司会 そうですね。前向きな SAT の新しい取り組みになると思います。子どもに教えるのと別に、先生たちに指導方法をお伝えするのは可能だと思います。

司会 私も学校に勤務しているのですが、先生たちがグラウンドで最初に教えることがあります。それがとても大切だと思っています。私たちはほんとの初心者に対するスタートプログラムのノウハウを持っています。

自分の学校で、そうした場面での先生たちのスキルを上げることが必要だと感じて研修を行っています。そういった研修が SAT で可能かも知れません。内容をご紹介します。

私はスキーを履かせる前に準備体操をやります。低学年の場合は、スキー板を履く前にブーツで動き回る鬼ごっこや、リレー遊び、綱引き遊び、足じゃんけん、カニサン歩きなどをやってあげると、スキー板をつけてからの身のこなしが随分違ってきます。

スキー板を履いてまずは歩くことが大切です。雪がたっぷり積もっているときは、迷路を作りながらウォーミングアップをしていきます。先頭は先生がやります。花の模様を作ったり、渦巻きを作ったりしながら進みます。ジグザグに歩くと、すれ違いざまに挨拶をしたり声を掛け合ったりする子どもたちが出てきて楽しいものです。後でスキー山の上から見たときに「すごい！」というような様子ができていると次回の意欲にもつながります。

スキー山で身に付けさせたいことは、直滑降で遠くまで滑ることです。「一番遠くまで滑った人がうまいんだよ！」と、意欲を持たせます。長い距離を滑ると足が強くなり、ゲレンデに行っても楽しめます。

グラウンドのスキー学習は、ゲレンデ以上に大切です。指導者が練習のバリエーションを増やしていくことによって、子どもたちに

雪に親しむことが楽しいと感じてもらうことが可能になります。

SAT 事業として、私たちはそのような形でもご協力もできますので、ご検討ください。

(6) 安全確保について

会長 安全面で確認したいことがあります。楽しくということは大切なのですが、子どもたちはネイチャーコースや林間コースに行きたいと言います。でも、事故がおきたら大変です。コース制限をこちらから言うのは難しい面があります。授業ということですから、各学校統一してやめようということが必要だと思います。別の形でスキーの楽しさを伝えたいと思います。

今井 私個人としてはネイチャーコースはやりたいという気持ちがあります。子どもたちがとても喜ぶからです。その場合、万全を期します。私の滑ったコースから外れないこと。上手な子を指名してパトロールの役目で最後を滑らすなどの工夫をしています。

今までそんなに事故はありませんでしたが、やはり事故が起きる可能性は十分ありますね。禁止なら禁止で決めていただきければ従いますが、やはりそういうコースや急斜面を滑ることで上達することはあると思います。

関野 林間コースは後ろが見えないのですごく怖い。怪我をしたとなると大変です。私はそういうところはダメだといいます。その中で楽しく滑る方法を一生懸命考えています。

※ 懇談会後開催した連盟役員会で、林間コース等の制限を、教育委員会から各学校に働きかけていただくよう依頼することを決定しました。

(7) まとめ

司会 時間が来ました。最後に課長さんいかがでしょうか。

課長 SAT についての学校から連盟への要望は、外部指導者活用事業で学校に配分しているものをやりくりしているので、そこだけ大きく増やすということは難しい状況です。学校には、これまでどおり保護者や地域にも声をかけていただきたいと思います。

今日のお話をお聞きして市教委が担う課題がはっきりしてきたと思います。スキー連盟から見て学校の運営で課題がないかということ把握し、学校に伝えることが必要だと思いました。あるいは、学校で知りたいことや調整したいことを連盟にお伝えすることもしていかななくてはならないと思いました。

スキー授業を改善するために、教育委員会が汗をかかなくてはならないと思いました。

司会 これまでの話で、成果と今後詰めなければならぬ課題が見えてきました。

スキーSATについては、北海道中見ても教育委員会にここまでの体制を作っていたいている町は少ないと思います。

山はないけれど、石狩市の子どもたちのスキー環境は恵まれていると思います。もっと私たちを活用していただき、子どもたちのために活躍していきたいと思います。

本日はありがとうございました。

